

京都大学フィールド科学教育研究センター徳山試験地で檜皮査定会が行われました。

2015.10.26

試験地内のヒノキ林は文化庁によって「ふるさと文化財の森」に指定されています。（この指定は、文化財建造物を修理し後世に伝えていくために必要な木材などの確保と、技能者を育成することを目的に行われています。）

試験地内の「檜皮実験林」において、全国社寺等屋根工事技術保存会の主催する檜皮査定会の見学会が行われました。檜皮の採取は10年に1回とのことで、今回はその貴重な作業現場の見学となりました。原皮師を目指す受験者がロープを巧みに使い木に登りながら専門の道具（木製のへら）を使って檜皮をきれいに剥ぎ取る様子に、見学者のみなさんは感動し、熱心に観察しておられました。



この採取された檜皮が文化財の補修に使用されます…